

平成14年度大台ヶ原自然再生推進計画調査業務 (森林再生手法検討)

1 目的

本業務は、森林植生の衰退を防ぎ、健全な森林植生を再生するために必要な調査を行い、目標とする森林植生の具体的な再生手法を検討する。

2 業務期間

平成14年度（平成15年3月まで）

3 業務内容

(1) 大台ヶ原地域における森林植生の再生目標の設定調査

①大台ヶ原における森林植生の地域区分

標高や地形等により多様な森林植生がみられたことから、地域別に目標とする森林植生や再生手法の検討を行うことが必要である。このため、植生の類型化、地域区分を行い、地域毎の再生目標を設定する。

- ・現況植生、植生林分の変移調査
 - 航空写真、聞き取り、文献、植生図
- ・林内構造別現況林分の把握
 - 植生調査（ブラウン-ブランケ手法）
 - 200地点（2000年調査）の資料整理
 - 補完調査：20地点の実施

↓
植生現況図の作成

↓
地域分化

↓
再生目標の設定

②大台ヶ原周辺地域の森林植生調査

森林植生が衰退する以前の大台ヶ原に類似した植生、衰退初期にあたる植生状況を把握し、森林衰退のプロセスを整理し、大台ヶ原の森林再生手法の参考とする。

ア) 大台ヶ原周辺地域（大峰山系）現況把握

- ・植生図、航空写真、既存文献
- ・植生調査（ブラウン-ブランケ手法、毎木調査、剥皮調査、後縦樹調査、ササ（コケ）調査）

↓
植生の相関図（時系列的な変移の把握）の作成

イ) 大峰山系における縞枯れ調査

- 文献、聞き取り調査
- 植生調査：シラビソ林内に3調査区設定

ウ) 希少植物調査

エ) 気象データ調査

(2) 森林更新の促進手法の検討

シカによる影響が軽減された状況下における森林再生手法の検討を行う。

- ・既存文献、事例調査、有識者からの聞き取り、現地調査

①天然更新を促進する手法の検討

ア) 根株更新の技術

イ) 倒木更新の技術

ウ) 地かきによる更新の技術

エ) 笹生い地の天然更新の技術

②人為的関与により再生を促進する手法の検討 (植栽が必要な樹種毎で検討)

ア) 種子採取と樹種別の種子保全方法

イ) 種子の発芽に関する技術手法

ウ) 育苗技術

エ) 植栽計画に係る育苗計画と育苗施設設置に関する検討

オ) トウヒ苗植栽試験についての分析・検討

(3) 大台ヶ原地域の植生モニタリング調査

シカの生息・行動圏の変化による森林植生への影響を明らかにするためのモニタリング手法を検討する。

①モニタリング項目、手法、頻度の検討

②モニタリング調査区の設定